

第 2 回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 会議録

会議名	第 2 回 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会
事務局	地域のちから推進部
開催年月日	令和 7 年 5 月 26 日（月）
開催時間	13 時 30 分～15 時 25 分
開催場所	足立区生涯学習センター 研修室 1
出席者 （敬称略、順 不同）	岩永雅也（放送大学 学長）／原田隆史（八洲学園大学 教授）／川村みこと（区議会議員）／大竹さよこ（区議会議員）／しぶや竜一（区議会議員）／荻野美恵子（東京都盲人福祉協会 女性部会長）／傍嶋賢（SOBAJIMA STUDIO 代表）／高祖常子（子育てアドバイザー／キャリアコンサルタント）／田口幹人（合同会社未来読書研究所 代表）／長沖竜二（図書館総合展運営委員会事務局長）／田中ひろ子（公益財団法人足立区スポーツ協会 会長）／栢山猛（株式会社サンベルクスホールディングス スポーツクラブ事業部 事業部長）／田島のぞみ（区民（公募））／中野理紗（区民（公募））／古瀬清美（区民（公募））／中村重男（区民（公募）） 茂木地域のちから推進部長・生涯学習支援室長／大久保中央図書館長・3 分野連携担当課長／江連地域文化課長・生涯学習支援課長／原田スポーツ振興課長／河合図書館サービスデザイン担当課長／齋藤生涯学習支援課文化・読書・スポーツ連携推進担当／早川地域文化課調整係長／三津木生涯学習支援課生涯学習支援第一係長／渡邊生涯学習支援課生涯学習支援第二係長／坪井スポーツ振興課振興係長／栗城スポーツ振興課振興係主査／鶴殿中央図書館管理係長／勝倉地域文化課調整係主事／河野中央図書館管理係主任／宮澤中央図書館管理係主事
欠席者	西岡龍彦（東京藝術大学 名誉教授）／溝口紀子（日本女子体育大学 教授）／葛西啓之（株式会社いのちとぶんか社 代表取締役社長）／木村潤平（パラリンピックトライアスロン選手（一般財団法人 Challenge Active Foundation 代表理事））
会議次第	別紙のとおり
資料	資料 1 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 委員名簿 資料 2 第 1 回推進委員会における主な意見・今後の方針 資料 3-1 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会の全体像 資料 3-2 令和 7 年度上半期 部会の進め方 資料 4-1 足立区文化・読書・スポーツ計画の評価について 資料 4-2 足立区文化・読書・スポーツ分野計画の評価の視点整理 資料 4-3 足立区文化・読書・スポーツ分野計画 2 次・3 次評価基準

	資料 5 文化・読書・スポーツに関するアンケート調査について 資料 6 令和 7 年度 3 分野連携事業について 資料 7 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例 参考 1 【様式】活動指標管理表 参考 2 【様式】施策評価シート 参考 3-1 文化芸術推進計画 活動指標管理表（令和 6 年度実施分） 参考 3-2 読書活動推進計画 活動指標管理表（令和 6 年度実施分） 参考 3-1 運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表（令和 6 年度実施分） 参考 4 令和 3 年度 アンケート調査項目一覧（16 歳以上用） 参考 5 令和 3 年度 アンケート調査項目一覧（小 5・中 1 用） 参考 6 令和 3 年度 アンケート調査票（16 歳以上用） 参考 7 令和 3 年度 アンケート調査票（小 5・中 1 用） 参考 8 足立区 3 分野連携事業アンケート分析報告書 文化・読書・スポーツ関連イベント等一覧【文化芸術分野】 文化・読書・スポーツ関連イベント等一覧【読書分野】 文化・読書・スポーツ関連イベント等一覧【運動・スポーツ分野】
その他	傍聴者 1 名 （森村繁晴（放送大学 次世代教育研究開発センター 特命研究員））

(審議経過)

開 会

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

皆さん、こんにちは。時間になりましたので、ただいまから第 2 回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会を開催させていただきます。本日は、お忙しい中お越しいたきまして、誠にありがとうございます。

私は、本委員会の事務局を務めさせていただきます、地域のちから推進部中央図書館長の久保でございます。令和 7 年度から 3 分野連携担当課長も兼務させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

次第に入ります前に、令和 7 年度足立区役所地域のちから推進部にて人事異動がございましたので、ご紹介いたします。

地域のちから推進部長、茂木聡直でございます。生涯学習支援室長を兼務いたします。

■事務局（地域のちから推進部長／生涯学習支援室長）

茂木でございます。皆様、よろしくお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

続きまして、地域文化課長、江連嘉人でございます。生涯学習支援課長を兼務いたします。

■事務局（地域文化課長／生涯学習支援課長）

江連です。よろしくお願いします。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

続きまして、スポーツ振興課長、原田裕介でございます。

■事務局（スポーツ振興課長）

原田でございます。よろしくお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

以上 3 名となります。

ここで、私のほうから 3 点ご案内をさせていただきます。

まず、本委員会は、足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例第 6 条第 2 項に基づきまして、過半数の委員の出席により委員会が成立いたします。

本日は、西岡副会長、溝口副会長、葛西委員、木村委員の 4 名がご欠席でございますが、定数 20 名に対して過半数の 16 名の方が出席となっておりますので、委員会が成立していることをご報告させていただきます。

次に、本委員会は条例で公開を原則としているため、会議録はホームページ等で公開させていただきます。本日は、傍聴人の方もいらっしゃっております。

なお、会議録を正確に作成するため、皆様のご発言を録音させていただいております。また、記録のため写真撮影をさせていただく場合がございます。あわせてご了承ください。

次に、次第に入りましたら、ご発言の際には最初に委員名をおっしゃっていただいてからご発言をお願いいたします。

私からは、最後に配付資料についてご案内いたします。本日の配付資料は、次第の裏面の一覧のとおりでございます。次第でございますが、A4 縦のもので「第 2 回足立区文化・読書・スポーツ推進委員会次第」となっているものです。こちらの裏面をご覧ください。

本日、配付資料としまして資料 1～資料 7、参考資料といたしまして参考 1～参考 8 ということ

で、資料が非常に多くなっております。順次ご説明してまいりますので、その都度お手元にご用意いただきますようお願いいたします。資料にはそれぞれインデックスを貼らせていただいておりますので、お役立ていただければと思います。また、閲覧用として計画書の冊子をお手元にご用意しておりますので、必要に応じてご参照いただければ幸いです。

それでは、ここからは岩永会長に進行をお願いしたいと存じます。岩永会長、どうぞよろしくお願い申し上げます。

■岩永会長

それでは、進行を代わらせていただきます。改めまして、会長の岩永です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、数か月間空いてしまうので改めてのご挨拶をさせていただきますけれども、今回こちら側は 4 名体制でずっとやっております、そのうち西岡委員と溝口委員におかれましては、どうしても今日は都合がつかないということで、原田委員と私とで有識者のほうは進めさせていただくことにいたします。よろしくお願いいたします。

この委員会ですけれども、実は大きなミッションが 2 つありまして、1 つは、今実際に行われている 3 分野のこれまで行われてきたことをどう評価するかという評価の部分、それから、一旦計画が最終の時期を迎えてきますので、評価をすると同時に次の新たな計画をどのようにつくったらいのかということを考える上でアンケートを広くやりたいと思っておりますが、その項目の検討といったことをするというミッションであります。そういうことが主な作業となるということで、頭の中に置いておいていただきたいと思います。

今回お集まりいただいて、実際にいろいろな検討をしていただくのは 6 月から 9 月にかけて、短期間ですけれども、作業をしていただくということになります、委員の皆様にご協力をお願いしたいと思います。

私はいつもぎりぎりで来ているので分かりませんでしたけれども、今日は何と 1 番目ぐらいにここへ来て、前でずっと見ておりましたら、いろいろな方の入り方というのがあるんだなと思いました。意気込んで入ってこられる方もいるし、どういことをするんだろうなとおずおずと入ってこられる方もいるし、いずれもさわやかな緊張感を感じまして、これは良い委員会になるのではないかなという予感を感じております。

ということで、ご協力をよろしくお願いいたしますと思います。

1 推進委員会 委員名簿

2 第 1 回推進委員会における主な意見・今後の方針

■岩永会長

それでは早速、先ほどご紹介いただきました次第に沿って事務局から説明をお願いしたいと思います。

まず、次第の項目の 1 番目「推進委員会 委員名簿」と、項目の 2 番目「第 1 回推進委員会における主な意見・今後の方針」についてということで、事務局から説明をお願いします。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

それでは、大久保のほうからご説明をさせていただきます。

まず、資料 1「足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 委員名簿」をご覧ください。A4 縦のものとなっております。こちらにつきましては、前回、第 1 回の会議で部会の割当て等を決めさ

せていただきまして、そちらに基づいて作成をしております。

1点補足がございまして、上から3番目、原田副会長の役職・団体等のところが変更となっております。八洲学園大学教授ということで、今回から変更をさせていただいております。こちらにつきましては、以上となります。

続きまして、資料2「第1回推進委員会における主な意見・今後の方針」についてご説明をさせていただきます。

こちらは第1回、前回の推進委員会において委員の皆様から頂いた意見の中から抜粋して掲載させていただいております。あわせて、左側に皆様のご意見、右側に現時点での区の方針ということで、方向性を書かせていただいております。

簡単にご説明をさせていただきますと、まず1ページ目、1番の「3分野計画全体」というところですが、項番の1番と2番は計画全体とか共通理念に関するご意見となっております。今度の新計画の改定に合わせて、こちらの基本的な部分も含めて議論をしていこうということにさせていただいていたかと思います。

続きまして、項番の3と4については、3分野の連携についてということでご意見を頂いております。こちらについてもご意見を踏まえて、なるべくこの会議の中で連携を図るような形で進めていければと考えております。

5番の評価については、定量的調査だけではなく定性的調査もということで、こちらについてはアンケートの検討の中等でご議論をさせていただければと思います。

項番6と7につきましては、PRについてということでご意見を頂いております。このうち、項番7のしぶや委員からのご意見につきましては、区のイベントについてもっとこの委員会の中で周知を図ってほしいということでご意見を賜りましたので、本日、資料番号を振ってはいないのですが、A4横のホチキスとじのもので、現時点で確定している情報の範囲になりますが、各分野のイベント一覧をつけさせていただいております。こちらは分野によって数にばらつきがあるのですが、例えば文化芸術分野でいきますと3ページほどになっていまして、22のイベントを記載させていただいております。その次には読書分野ということで8つ。運動・スポーツ分野は2ページにわたって16のイベントを掲載させていただいております。こちらにつきましては各分野の主要なイベントということで、例えば指定管理者のほうで日常的に行っているようなイベントは含めておりません。また、内容はあくまで現時点の予定ですので、今後変更となる可能性もございます。あらかじめご了承ください。

それでは、資料2に戻らせていただきます。裏面の2ページ目をご覧ください。

項番2「文化芸術分野」ということで2つ、いずれも文化芸術の定義についてということでご意見を頂いております。こちらについては、今後の文化芸術部の部会のほうで詳しく整理をさせていただきたいと思っております。

最後になります。3番目が「読書活動分野」ということで、今回アンケートを取らせていただきますけれども、そのアンケートを踏まえて計画の主なターゲット、今は子どもということでやっておりますが、その変更の可能性があるのかというご意見を頂戴しております。それについて、岩永会長と原田副会長からコメントを頂戴しております。こちらについても読書部会の議論の中で引き続き検討をさせていただければと思います。

資料1、資料2の事務局からの説明につきましては以上となります。よろしくお願いいたします。

■岩永会長

ありがとうございました。大分間が空いてしまったので、思い出しながら私なども資料を見ておりましたが、確かにいろいろ検討しなければいけないことがあるなということを実感しております。

ここまでの説明で皆様から意見・質問等をお受けしたいと思うのですが、何かありましたらお願いします。先ほど事務局からもありましたように、発言の際には、録音を後で起こす必要がありますので、最初にお名前をおっしゃっていただいてから発言をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

いかがでしょうか。なかなかファーストペンギンというのは大変なのですけれどもね。大体ファーストペンギンは食われてしまうということらしいですが、いかがでしょう。特段質問等がなければ。

後で思い出して質問されたり意見を言われたりしても全然結構だと思いますので、先へ進めさせていただきます。

3 令和7年度のスケジュール

(1) 推進委員会の全体像

(2) 上半期の部会の進め方

■岩永会長

それでは、続いて次第の項番3「令和7年度のスケジュール」ということで、こちらも事務局から説明していただきます。お願いします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

では、こちらも大久保のほうからご説明をさせていただきます。

主に使用する資料は、資料3-1と3-2になります。3-1がA4横のもの、3-2がA4縦のものとなります。

まず、資料3-1からご説明をさせていただきます。こちらは文化・読書・スポーツ推進委員会の全体像ということで、前回の会議の中でも説明させていただいた内容とほぼ同じとなっております。また、今日の冒頭で岩永会長のほうから、大きくこの委員会では評価の作業と新計画策定に向けたアンケートの検討ということでお示いただきましたが、この資料もまさにそのような書き方となっております。

資料の上段が現計画の評価ということで、この4月から8月にかけて皆様をお願いをしまして、令和6年度、昨年度の事業実績に基づく評価作業を行っていただきます。詳細につきましては、後ほどご説明をさせていただきます。

もう一つの大きな流れといたしましては、表の下「新計画策定」というところになりますが、同じ4月から8月にかけては主に各分野の部会にてアンケートの設問について検討していただく形になります。その後、現時点では秋頃のアンケートの実施を目指して進めていきたいと思えます。現計画の評価とアンケートの結果を踏まえて、年度後半には新しい計画の骨子案の作成を進めていくという大きな流れとなっております。

続きまして、当面の部会の進め方について、資料3-2に基づいてご説明をいたします。

上から順番にご説明をさせていただきます。まず、「5月」のところにありますのが本日の第2回全体会になります。本日は、評価とアンケートについて全体像をご説明させていただきたいと

思います。

その後の今後のご予定ですけれども、6月の下旬に各分野の部会の第1回目を開かせていただきます。そこでは具体的な各分野の施策——事業をまとめた束のものになりますけれども、施策とか各個別の事業に対する意見交換をしていただく形になります。あとは、先ほど申し上げましたように、アンケートの項目についてもご意見を頂きたいと思います。

6月下旬に第1回の部会を開催するまでなのですが、こちらでも後ほど詳細をご説明いたしますが、本日お配りする資料を皆様に読み込んでいただきたいと思います。こちらの内容が各事業の実績をまとめた資料になるのですけれども、各分野、かなり大量の資料となっておりますので、一定期間で時間をかけて読み込んでいただいて、次回の部会までに何かご意見とかご質問等ありましたら少し事前に頂くような形で進めさせていただければと思います。そこが評価調書確認期間での作業内容となります。

そういった形で第1回の部会が終わりましたら、その次、7月下旬に第2回の部会を行いたいと思います。こちらでは、第1回の部会の意見を踏まえて評価のまとめ作業とかアンケートの質問項目の調整をさせていただきます。その後、8月下旬には再度こういった形で3つの分野が集まりまして、それぞれの分野で議論してきた内容を共有の上、決定という形で進めさせていただきたいと思います。

こちらにつきまして、私の説明は以上になります。

■岩永会長

ありがとうございます。具体的な内容が少しずつ明らかになるにつれ、大変な作業だなと思われてきたのではないかなと思いますが、よろしくお願いします。

不明な点等いろいろおありかと思いますが、その都度で結構ですので、ご質問、それからここはこうしたほうがいいんじゃないかというようなご意見がありましたら、都度都度伺いたいと思いますが、ここまでのところでまずご質問・ご意見がありましたらお願いします。——よろしいでしょうか。

よくうちの大学などでは、最初に質問をした人に「じゃあ、これを先生にやってもらいましょう」というので当てられることが多いのでみんな黙っているのですけれども、ここではそういうことはありませんので、どんなことでも。「じゃあ、やります」と言ってしまうから大変だというのが分かって、わけの分からないことがたくさん出てくると困りますので。

どうぞ、中野委員からお願いします。

■中野委員

資料3-2の評価調書確認期間のことなのですが、私たちがやることは、この大きなクリップに留まっている資料を部門問わず、担当部門以外も全部読んで、メールで個別に質問していく形でしょうか。

あと、提案とかもあればその際にご連絡するのか、提案については6月の会議でお話しすればよいのかというところの2点が気になりました。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

では、事務局から2点ご説明させていただきます。ご質問ありがとうございます。

まず、確認いただく調書の分野ですけれども、基本的にはご自身の所属されている分野の調書をご確認いただければと思います。具体的には、本日おつけしております資料で参考資料3、枝番が1・2・3とついているものがあるのですが、例えば参考資料3-1が文化芸術分野の活動指標管

理表になります。文化分野の方につきましては、この文化芸術分野の調書をご確認いただく形になります。読書が 3-2、スポーツが 3-3 になっておりますので、こちらをご確認いただければと思います。

次に 2 点目のご質問、ご意見というところですが、基本的にはまずこちらの活動指標管理表に関してのご質問ということを考えていただければと思います。ただ、決してご意見を出さないでくださいということではございませんので、何かお気づきの点、ご意見とかご提案がありましたら併せて頂ければと思います。

手法といたしましては、Excel のご質問の様式をお送りしますので、基本的にはそちらに入力していただいてお出しいただくということでやらせていただければと思います。そのやり方で何か不都合等がある場合は個別にご相談いただければ、個別に対応させていただきますので、よろしくお願いいたします。

■岩永会長

中野さん、よろしいでしょうか。

■中野委員

はい、大丈夫です。

■岩永会長

今拝見しますと、名簿によると読書部会ということですね。読書部会を中心にご覧いただければと思います。どうもありがとうございます。皆さんも、ご自分の名簿にある部会について重点的に見ていただくということで進めていただければと思います。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ、中村委員、お願いします。

■中村委員

中村です。よろしくお願いします。

先ほどの評価調書なのですけれども、令和 6 年度の実績に基づいて評価をするということですが、過去に助言と評価というのが幾つかされていますので、その辺の時系列的な部分が見たいと思うのです。過去にどういう助言をして、どうなったのか、どういう評価をして次年度は変わったのか、その辺の系列的なものが見たいので、そのところはサマライズして提出していただくわけにはいきませんか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

そちらのほうはご用意させていただきたいと思います。主には過去の資料ということで、今までずっと評価をためてきているものがあります。そこには前年度にどういう助言を受けて、それがどのように反映されたかというものが分かるような書式になっておりますので、各分野ごとに整理してお送りさせていただきたいと思います。

■中村委員

よろしくお願いします。

■岩永会長

ありがとうございます。確かに、これまでどう評価されてきたというのは非常に重要な情報だと思いますが、恐らく事務局としては、この枚数の 2 倍 3 倍になることも予想されますので、あまりドンと来て恐れをなされても困るなということで遠慮したのだと思いますが、確かに重要な情報だと思いますので、事務局にはよろしくお願ひしたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。どうぞ、田島委員。

■田島委員

田島と申します。私は文化の委員なのですがけれども、生活している上ですごく図書館を使うことがあって、読書に関しても別に意見を申し上げてもよろしいのですよね。

■岩永会長

ええ、もちろん。

■田島委員

ということでよろしいのですよね。普通に生活する上で「こうしてほしい」とか「こう思う」というのは、意見として吸い上げていただけると考えてよろしいのでしょうか。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

はい。分野をまたいだご意見でも全く差し支えございませんので、ぜひお寄せいただければと思います。

■岩永会長

そもそも、この委員会の元の3分野の推進ということは、私がもう10年近く前に参加したときに皆さんで決めていただいたのですが、一つ一つの分野だけで重点的にやるということではなくて、これはそれぞれの分野が互いに刺激し合っというか、連携し合っ進めていくということが前提になっている、そういうプロジェクトなのですね。ですから、読書部会に入られている方、文化部会に入られている方、スポーツ部会に入られている方、それぞれ一応そうなっていますけれども、そこから見ると、例えば文化の田島さんのほうから見た読書とか、文化のほうから見たスポーツとか、そういう視点で評価をしていただくということも全然越権行為でも何でもなくて、むしろ望ましいことなので、もしお時間がありましたらそちらのほうで考えていただければと思います。よろしくお願いします。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

ありがとうございます。後で出てきた場合には、その都度ご挙手いただければと思います。

4 3分野計画の評価について

(1) 評価の概要

(2) 評価の視点整理・評価基準

(3) 評価調書の様式

■岩永会長

それでは、続いて次第の項番4「3分野計画の評価について」ということで、こちらも事務局から説明をお願いします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

では、引き続き大久保のほうからご説明をさせていただきます。

こちらでは主に評価の仕組みについてご説明をさせていただきますが、こちらの計画がスタートして以降、基本的に仕組みは変えてございません。ですので、令和5年度以前にこちらの評価作業に携わっていただいた委員の皆様におかれましては、従前と同様ということで念頭に置いてご説明を聞いていただければと思います。ただ、今回、新しい委員の皆様も多数いらっしゃいますので、少し丁寧にご説明をさせていただきます。

使用する資料は、資料4-1、4-2、4-3の主に3点となります。まず資料4-1、A4縦のものからご説明をさせていただきます。

こちらにつきましては、評価の目的が書かれております。計画の各施策とか事業の進捗を数値によって管理するという事で、事業の取組度を測るものとなっております。よく言われる表現ですけれども、PDCA サイクルに基づいてということで、具体的に前年度に立てた計画がどれだけ実績が上がったかというところで評価をしていただく形となっております。

具体的に評価に使用する様式のほうから先にご説明をさせていただきます。

先ほどご説明しました参考資料 3 をお手元にご用意いただいてもよろしいでしょうか。評価に使用する調書が 2 つ主にございますけれども、その 1 つの「活動指標管理表」というものになります。こちらについては、計画の中にこういったものをやりますということで、一番書かれている細かい単位が事業というものになりますけれども、その事業ごとに一つ一つ実績を記載したものになっております。本日は文化の資料を参考にご説明させていただきますけれども、参考 3-1 になります。

1 ページ目、左から 2 番目に施策 1-1 と書いておりますけれども、施策 1-1 の中に含まれている事業の一覧になります。事業の単位は項番で「1」と書かれているもので、「アートアクセスあだち」ということでありますが、これが 1 つの事業の単位となっております。項目といたしましては、過去の実績値とか直近の令和 6 年度の実績値、あとは令和 7 年度の目標といったことが左から右にかけて書かれている形になります。

特にご覧いただきたいのが、真ん中辺りに「R6 実績値」とあります。これが昨年度の実績になりまして、これが 1 つ隣の「R6 目標値」に対してどれぐらい達成できていたかに対して A・B・C・D・E の 5 ランクで評価しているものになります。この「アートアクセスあだち」でいきますと、令和 6 年度の目標値が 2 万人、実績値が 2 万 6,000 人以上ということで、目標を超えていますので「A」になっております。A・B・C・D・E のつけ方ですけれども、表の欄外上のほうに【「達成度欄」評価基準】というものがあります。表の上のところに 1 行書いてありますけれども、ここで A が 80%以上、B が 60~80%ということで記載させていただいております。こちらの資料についてはこのような形となっております。

具体的に皆様にご覧いただきたいのが、実際に達成度がどうなっているかというところと、その 1 つ隣に長く文章が書いてある欄がございます。「R6 取組状況」ということで、実際にその達成度についての分析等が書いてありますので、主にはこの達成度と取組状況を確認していただければと思います。

活動指標管理表についてのご説明は以上になります。これはかなりボリュームがありますので、ちょっとお時間を取っていただいてご確認いただく形となります。

もう一つ、皆様に使用していただくシートがございまして、参考資料 2 というものがあります。こちらが施策評価シートになりまして、先ほどの一つ一つの事業よりも 1 つ上の単位のもの——事業を幾つか集めたものを施策ということでまとめておりますけれども、施策単位の評価ということになります。皆様に行っていただく評価作業の最終成果物はこちらの形になります。その中でも、この表の右半分の真ん中に「5 推進委員会による評価」という欄がありますが、最終的にはここを委員の皆様にご作成していただく形になります。こちらの欄の右上に全体評価が「4」とか方向性が「3」と入っておりますが、こちらは最終的に委員会として 5 段階で評価をつけていただきます。それと併せて、具体的な評価の点数をつけた理由についてコメントをしていただいているのが、この四角の枠の中になっております。

こちらの施策評価シートですが、実は 6 月上旬に完成する予定でして、本日はまだ皆様のお手

元にはお配りできておりません。こちらのシートを、左側の 1・2・3 番と右側上の 4 番のところを埋めた状態で後日皆様のほうにお送りさせていただきますので、次回の部会のときまでにこちらのシートも併せて読み込んでお越しいただければと思います。ただ、具体的に推進委員会による評価——右側真ん中の 5 番ですけれども、こちらの採点とか具体的にどういったコメントを書くかは部会の中で議論をした上で決定したいと思いますので、事前に読み込んで来ていただければ大丈夫です。何か作業をしていただくものはございませんので、ご安心いただければと思います。

使用するシートは以上となります。もう一度整理させていただきますと、次回の部会までには活動指標管理表を読み込んでいただいて、事前にご質問とかご意見を頂くという形が中心となります。あわせて、施策評価シートのほうも後日追加でお送りしますので、こちらもお読みいただいた上で部会のほうに臨んでいただければと思います。

それでは、評価の仕組みについて少し補足をさせていただきます。資料があちこち飛んで恐縮ですけれども、A4 横の資料 4-2 をご覧ください。

こちらは評価の全体の流れとか仕組みをまとめたものになります。この評価制度なのですが、3 段階になっていまして、1 次評価・2 次評価・3 次評価となっております。このうち 1 次評価と 2 次評価というのが区でやるものになりまして、皆様に行っていただくのは最終的な 3 次評価という位置づけです。こちらはご参考までに見ていただければと思います。基本的には、活動指標管理表の作成とか施策評価シートはほとんど区のほうで行って、そちらを見ていただいた上で皆様には最終的な評価をしていただく形になります。

資料 4-3 につきましては、評価の 5 段階の点数をつけていただく際の基準となっております。こちらは後ほど詳しくお読みいただければと思いますが、ポイントといたしましては、標準点は 5 段階のうちの 3 と考えております。それよりも良ければ 4・5 がつきますし、標準点以下であれば 2・1 がつくという仕組みで考えております。

細かい説明で申し訳ございませんでした。評価制度に関するご説明は以上となります。

■岩永会長

ありがとうございました。非常に単純に言いますと、この横広の活動指標管理表の令和 6 年度の目標値と実績値、そして達成度の評点を A・B・C、それから取組状況を見ていただいてご自分なりの評価をしていただければということだと思います。あまりいろいろなことを見る必要はないと思うのですが、ここのところをしっかりと見ていただくと。

ちょっと私、目についてしまったので、1 つ質問です。

先ほど文化芸術のほうを一つのモデルとして見せていただいたのですが、この 1 枚目の「アートアクセスあだち」の部分ですね。これは、目標値、実績値、達成度、取組状況はいいのですが、右のほうに今年度の、つまり令和 7 年度の取組予定と令和 8 年度の目標値というものもありますよね。何でもここまでついているのかよく分かりませんが、例えばこの令和 8 年度の目標値というところに目が行ってしまうと、なぜ令和 8 年度の目標値で急に 1 万 3,000 人に志が低くなるのかなというのがちょっとよく分からなくて。こういうところの評価はいいのですね。これは別の事情があってこうなっているということ。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

こちらはご指摘のとおりなのですが、令和 8 年度の目標値というのは、今お手元にご覧いただけますこの計画の冊子上でもう記載されているものになりまして、令和 5 年度に計画の見直しを

したときに設定したものであるということで、ここは一旦固定とさせていただきます。ただ、ご覧のとおり、もう既に目標値を超えてしまっていますので、例えばこういった部分は次の新計画を策定する際に目標値をどう見直していったらいいとか、そういったことを部会でご議論いただけるとありがたいと思っております。

■岩永会長

ありがとうございました。ということは、今回の評価は、取りあえずそこは特にコメントしていただく必要はなくて、こちらのさっき言った令和 6 年度の目標値、実績値、達成度、取組状況を見ていただければいいということですね。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

せっかくお気づきいただいたところにつきましてはご意見をぜひ出していただければと思いますので、多分こういったものがほかにも幾つかあると思いますが、お気づきのところをご指摘いただければと思います。

■岩永会長

分かりました。

あと、実は私、午前中に、私の大学の評価委員会というところに出ました。出たといっても、被告席に座っていたので、大学が評価される側にいたのですね。そうすると、やはり評価委員の先生方——これは外部の先生方ですけれども、いろいろ「こうしたほうがいいんじゃない？」とか「この数字はちょっと達成できていないんじゃないの？」「こういうやり方は本当にあなたの大学に合っているの？」みたいなことを言われるわけです。確かにみんな一理あるご意見なのですけれども、結局なぜそのようになったか、なぜそういう実績になったかということは私たちが一番よく知っているわけです。実際にやっているわけですから。

だから、皆さんにやっていただくことは、実際にこの事業・施策をやっておられるところの庁内検討とか庁内評価というところで、この人たちは非常によく分かっていて書いているわけです。ただ、中にいて実際にやった人が「よくやった」と思っていることと、外側から見て「それはまだまだだろう」ということとはちょっとずれてくるので、皆さんにはぜひ、庁内検討の部分の前提にしながらも、「それはちょっと多めに見過ぎだろう」というところもあるかと思ひますし、逆に「控えめ過ぎるだろう。ちゃんとやっているじゃないの」というような評価もあるかと思うのですね。外側から見た評価というのが大変重要だと思いますので、やり方としては、とにかく庁内評価というのを前提に、これはきちんと見られているということを前提に。あるいは、見方がひょっとしたら手前みそになっているのではないかというようなことも考えて、ある意味で批判的に見ていただければなと思うわけです。

あまり言うと大久保さんに叱られますけれども、決して庁内評価で「良い」と言っているのが全部良いわけではないと私は思っておりますので、ぜひその辺のところはきちんと厳しく見ていただければなと思います。ただ、基本はこの庁内評価で細かく見られていることが基本になって、そこから先、外部からの目を見ていく、加えていくというようなお役目をしていただくということだと理解しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

申し訳ありません、岩永会長、非常に重要な点を補足いただきまして、ありがとうございます。まさにおっしゃるとおりでして、先ほど私のほうでご説明が漏れてしまったのですが、参考資料 2 をいま一度お手元にご用意いただけますでしょうか。

先ほど皆様には 5 番の「推進委員会による評価」ということで 5 段階評価をつけていただくと申し上げましたが、その上の 4 番のところに、まさに庁内の評価という欄がございます。こちらを比較していただければと思いますけれども、庁内評価では左から「4・4・4」と 3 つ「4」がついておりますけれども、その下の推進委員会による評価のところは「4・4・3」ということで、「方向性」は推進委員会のほうでは「3」をつけていただいております。こういった形で、庁内検討委員会の評価は一つの参考にしていただきつつも、推進委員会のほうで改めてご検討いただいて評価をしていただくという形でお願いできればと思います。まさに会長がおっしゃったとおりですので、よろしくお願いいたします。

■岩永会長

ありがとうございます。

ここのところで、どうぞ、田島さん。

■田島委員

質問なのですけれども、この推進委員会のほうの評価を最終的にするということで、評価するための資料というのは、書いてあるこの調書というか、評価シートしかないと考えていいのですか。それとも、何かほかの事業に関するパンフレットとかを頂いて、それを拝見しながらというもののなか。

この文章だけだと、果たしてできるのだろうかという不安がございます。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ご意見ありがとうございます。現時点でご用意させていただいている資料はこちらになりますが、例えば事前にご確認いただいてご質問を寄せていただく期間の中で、ここをもう少し詳しく知りたいので何かパンフレットとかチラシとか参考資料をとということでご請求いただければ、部会のときまでにご用意させていただくような形で準備したいと思います。

■田島委員

ありがとうございます。

■岩永会長

ありがとうございました。

決して区の肩を持つわけではないですけれども、都合の悪いことや細かいところは全然情報の中に入れていないということではなくて、何から何まで全部入っていると評価も大変だと思うのですね。エッセンスということ。

これを考えるに当たって、やはりこういうものも必要だろうと皆さんがそれぞれ思いになったら、あるいは部会でそういう話が出てくるかもしれません。まだこういうところが足りないね、こういう情報が足りないねということになったら、区のほうに請求していただければ出てくると思いますので、よろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

それでは、いろいろなことが明らかになってきたと思いますので、一つ苦情を言うと、最初は、10 年ぐらい前にこのプロジェクトに関わったときはまだ私と同輩の方とかちょっと若いぐらいの方が中心でお話をしていたのですけれども、10 年たってみると、私の子どものような人が皆さんいらっちゃって、時間がたったなというふうに感じております。ちょっと疲れてまいりましたが、それだけに、私に比べて相対的に若い方のご意見というのは大変貴重だと思います。よろしくお願いいたします。

5 新計画策定に向けたアンケート調査について

(1) アンケート調査の概要

(2) 前回実施時の調査項目一覧・調査票

■岩永会長

それでは、続いて次第の項番 5「新計画策定に向けたアンケート調査」、2 つのミッションのうちの後のほうについてご説明をお願いします。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

では、引き続き私のほうからご説明をさせていただきます。お手元の資料 5、A4 縦のものをご覧ください。こちらにはアンケートの概要が記載されておりますので、ポイントを絞ってご説明させていただきますと思います。

まず、調査の目的でございますけれども、1 の (1) に書かれておりますように、各分野における関心や行動の実態を把握するということになっております。ですので、アンケートの質問の基本的な部分は文化・読書・スポーツに関心があるかどうかということと、文化・読書・スポーツの行動を実際に行っているかどうか为主軸となっております。

2 番の調査のポイントですが、3 点記載しております。1 点目は、先ほどから申し上げておりますような形で、こちらのアンケートについては令和 9 年度からの計画の基になる基礎調査ということになっております。2 点目といたしましては、一方で、全くゼロから作るというアンケートではなくて、平成 30 年度と令和 3 年度に実施しております、3 回目のアンケートになりますので、経年変化を把握するもの、継続して把握するものについては一定程度残しながらアンケートを組み立てていきたいと思っております。あと、3 番目がアンケートの一番の特色でございますけれども、文化・読書・スポーツそれぞれ単体で取るアンケートではなくて、3 つまとめて取るということで、それぞれの分野のことだけではなくて、その連携に関しても分析を進めたいと考えております。

3 番の調査対象・調査方法については、基本的には記載のとおりになりますけれども、基本的な調査のメインの部分は、1 番の「16 歳以上の一般区民」ということになります。こちらがボリュームとしては一番大きいところになります。次は、2 番と 3 番が小中学生に向けたアンケートになっております。こちらについては、平成 30 年度のときから小学 5 年生と中学 1 年生に固定してアンケートを取っていきまして、その経年変化を確認しているところです。4 番の障がい者の方へのアンケートについては、平成 30 年度のときには実施しておらず、令和 3 年度の 2 回目のアンケートから実施をさせていただきました。こちらの背景といたしまして、例えばスポーツが顕著ですけれども、パラスポーツの推進ということでやっておりますように、各分野、障がい者の方の視点を取り入れながら誰もが身近に文化・読書・スポーツに親しめるようにということで進めておりますので、団体のご協力を頂きながらアンケートを取らせていただいているところです。それぞれの件数とか回答率につきましては、下の表のとおりとなっております。

2 ページ目をおめくりいただきまして、1 ページ目でご説明したのが主に従来の調査の基本的な部分になりますけれども、今年度に変更したいところを 2 点挙げております。1 点目といたしましては、件数ですけれども、先ほど 16 歳以上の一般区民向けのアンケートを 8,000 件取っているとご説明しましたが、こちらについては件数を精査しまして、3,000 件ということで今年度は実施したいと考えております。

2 番目の、調査票の質問項目ですけれども、既存の質問と新たに追加する質問ということで考えていきたいと思っております。表の一番上の「新規」というところですが、令和 9 年度の新計画策定に

向けて新たに確認すべき内容を追加させていただければと思います。「継続」のところにつきましては、先ほど申し上げましたように、例えば関心とか行動といったアンケートの主軸になるところについては経年変化を把握する必要がありますので、一定程度残していきたいと思っております。最後に「終了」というところですが、令和 3 年度はコロナ真ただ中ということで、アンケートの質問の中に「コロナ前後で親しみ方がどう変わったか」といった質問を入れさせていただいたのですが、こちらはもう不要であろうということで削除をさせていただきたいと考えております。

概要は以上になりまして、具体的な質問項目に簡単に触れさせていただければと思います。参考資料 4 と 5 をお手元にご用意いただいてもよろしいでしょうか。

こちらは実際に令和 3 年度にアンケートを行ったときの調査項目の一覧になっております。参考 4 のほうが区民の方 8,000 人に向けて行ったアンケートになっています。分析の視点というのが 1~6 番まで一番上の点線囲みのところに書かれておりますけれども、5 番に「コロナ禍の影響を把握する」とありますが、これは今年度のアンケートについては不要かと考えております。

その後、「一般区民向け調査」という表になっておりますけれども、大まかなところだけご説明させていただきます。

基本的な分類としましては、網かけになっている行が質問の大きな分類になっておりますけれども、最初のところが性別とか年代等の基本属性についてであります。その後、文化・読書・スポーツ全般に対する関心、その後に個別に文化芸術についてということで、文化の質問が 10 問あります。11~20 番までが文化の質問となっております。めくっていただきまして 2 ページ目、読書が 6 問、運動・スポーツが 9 問ということで、分野によって質問数にばらつきがある状況です。

3 ページ目へ行きまして、36 番からの「文化・読書・スポーツに関わる活動について」ということでは、後ほどご報告します 3 分野連携事業についての質問を入れさせていただいております。39~42 番のコロナの質問は基本的にはカットということで考えております。

「あなたの日常生活について」というのが次に大きな分類としてありますが、こちらについては、文化・読書・スポーツが人生 100 年時代はどういった影響をもたらすかということで、計画を最初につくったときに「文化・読書・スポーツを通じて心豊かに生きる」という共通理念を掲げておりますけれども、それに関する質問ということで入れさせていただいております。そのほか、文化・読書・スポーツと地域のコミュニティの関係性とか愛着・誇りとの関係性といったところの分析の質問が入っているという状況です。

こちらの中で、各分野で主にご議論いただくところは、例えば文化ですと「文化芸術について」という 11~20 番、読書であれば 21~26 番ですとか、各分野のご質問についてそれぞれご検討いただく形になるかと思いますが、それ以外の 3 分野共通のところでも、今日はせっかく 3 分野合同でお集まりいただいておりますので、例えば 3 分野合同のところでは何かこういったご質問を聞いたほうがいいのかということがありましたらご意見いただくとか、そういった形で今日の意見交換をさせていただければと考えております。

続きまして、参考 5 の小中学生向けアンケートのほうも簡単に触れさせていただきます。基本的には設問の構成は同じになっております。全体的なものと各分野の個別のこととなっております。ただ、小中学生向けのアンケートは保護者に聞く質問と子どもに直接聞く質問とで分かれております。1 ページ目の①番の保護者向け調査が、保護者の方に答えていただくもので 21 問。めくっていただきまして 2 ページですけれども、②番の児童・生徒向け調査がお子さんご本人に回

答していただくもので 15 問となっております。こちらの保護者と子どもを分けている理由ですが、子ども向け調査の一つのポイントとして、保護者と子どもの文化・読書・スポーツの関心なり行動の相関性というものを分析していきまして、例えば保護者の方が読書をするご家庭はお子さんも読書をする傾向が高いとか、そういった分析をするためにそれぞれに聞いているという仕組みになっております。

長くなりまして申し訳ありません。私のほうからは以上になります。

■岩永会長

ありがとうございました。

一番最初に申し上げましたように、委員会の 2 つのミッション、全く方向性の違うミッションがあって、これは後半のほうですけれども、一どきにこんなにいろいろ言われて大丈夫かと思われるのですけれども、混乱が生じないといいなと思っております。

調査は私の専門の一つでもあるのですけれども、こういうアンケートをやるときの一つの注意点というか大事なことは、これは一発勝負のアンケートではなくて、以前のもとの比較とか、これから先のものとの比較を考えますから、そうすると、あまり前にやったアンケート項目の文言と違ったものを作っては比較ができなくなってしまうのですね。それをきちんと合わせていくということが一つ。

もう一つは、矛盾するようすけれども、いろいろな状況が変わってきていますので、新たに聞かなければいけないこと、それから、さっきコロナの例が出ましたけれども、もう聞いてもしようがないことというのは当然出てくるので、その場合には以前の令和 3 年度のアンケートをやったり変えなければいけないところ、付け足さなければいけないところ、逆に減らさなければいけないところがあると思うのですね。そういうことが出てきますので、単に何か聞けばいいというものでは全然ないので、皆さんの検討する際の基準としてその辺のことを考えていただきたいということ。

もう一つ、現実的な基準として、あまりに多いと答えてくれないということがありまして、あれも聞きたい、これも聞きたいというふうに、知るほうは取りあえず聞いておきたいというものを全部入れたがるのですね。これはしょうがないことなのすけれども、それをやると有効回答率が 10%、20%と落ちてきますので、それでは何にもならないということで、その辺の折り合いをつけて調査票を作っていくということは大事なことでないかなと思っております。以前の経験もあるわけで、もうやってきたことがあるので、その経験から、ぜひ有効でかつシンプルでスマートな、そういうアンケートの調査票を作っていただければと思います。

ただ、やはり分析していて一番悔しいのは、「ああ、どうしてこれを聞かなかったんだろう」と。一番大事なことののにどうして聞かなかったんだろうということがあると、もう一度その調査をやるといふわけにはいかないので、同じ人に聞くということもできませんので、そこが一番悔しいところですね。だから、その漏れはぜひないように作ればいいなと思っております。

調査を設計するときが一番大事なことは、何のためにやるかということちゃんと合意しておかなければいけないということで、先ほどの参考 4・参考 5 で一番最初に出ているようなこと、こういうことのためにやるんだよということを共通理解として持っていないと、何でも聞けばいいという話になってきてしまうので、このところはこれからアンケートの項目を策定していく上で非常に重要なことかなと思います。

あまり過去のというか、今もやっているのですけれども、3 分野の活動に沿ったようなアンケー

トの内容にすると、ミッションの 1 つ目の評価と変わらなくなってしまうのですね。「今やっていることはどうですか」というような内容で聞いてしまうと、評価と変わらなくなってしまうので、ぜひ、「何をしたいか」とか「どういうものだったら参加したいと思うか」とか、それから「何が回答者の人生にとって大事だと思うか」とか、子どもだったら「何が楽しいと思うか」というようなことを、これから先の未来に向かっての見解・考えとして聞いていただければとても役に立つのではないかなと思います。

いずれにしても、あまりたくさんいろいろ聞くと回答率が劇的に下がりますので、後で説明してくださった小 5・中 1 用というのは教育委員会を通じてやることになりますのでそんなに落ちませんけれども、一般向けのはランダムサンプリングでばらまきますので、「長いな」とか「こんな面倒くさいことを答えるのか」と思われたらもうおしまい、10%を切るということは想定できますので。最初からアンケート調査の設計のところから脅かすようで申し訳ないですけども、そのようなことを考えながら皆さんで合議して作っていただければなと思います。

何か今のアンケートの説明でご質問・ご意見がありましたら。どうぞ、高祖さん。

■高祖委員

高祖です。今のアンケートで、前回実施時からの主な変更点が 2 ページ目に書いてありますが、配布数を全体で 3,000 件とすると書いてあります。前は、1 のところでは 8,000 件の配布で有効回答が 35%ということなのですが、これを 3,000 件にしてしまうとさらに 3 割程度にしかならないということになると、1,000 件程度しか集まらないということになって、内容的なアンケートの数値的なところがちゃんと取れるのかというのがちょっと気になりました。

さらに、学校を通じて配布・回収は 8 割以上ということで回収されているので、この方法でもいいのかなと思いますけれども、16 歳以上の一般区民に対して郵送の上配布・回収というところが、例えば QR コードをつけて、もちろん紙でないとできないよという方は紙で集める。ただ、これを読み込んでスマホとかで選んでいくのも併用すると、もうちょっと通勤途中に答えてくださったりとか回収しやすくなったり、答えるほうも手で書くよりはいいのかなと思いました。今からそういう工夫ができるのかは分かりませんが、ぜひ前向きに検討いただければと思います。

■岩永会長

ありがとうございました。まず私のほうから。あとは事務局のほうで。

サンプル数ですけども、8,000 から 3,000 というのは随分大なたを振るった減少ですが、漏れ聞いたところによると、上からの指示でそうなっているということもありますので。でも、やはり財政的に考えて、ただたくさん取ればいいのかというご意見も多々あるかと思います。ただ、一番大事なのは、答えた人と答えなかった人の特性の違いというのが本当はあって、回収率が低くなれば低くなるほど答えた人の特性が際立ってくるのですね。だから、ひょっとしたら 5%とか 4%になってしまうと、結構その 4%での回答をした人はほとんど足立区の職員だったりするとか——そういうこともないと思いますけれども、今のは冗談ですけども、そのような特性が際立ってきてしまうので、大変危険なことは危険なのです。

ただ、これは 8,000 にしても同じようなことで、ただただ集計するときの数が 2,000 でとどまるのか 1,000 になってしまうのかという、その辺のところの違いですね。偏りがあるのは 8,000 まいた場合も 3,000 まいた場合も同じです。変わりません。ただ、分析するときの一つ一つのセルとか、一つ一つの集団が 1,000 のときはすごく小さくなってしまいます。一つのまとまり

を、この人たちはどういうことを考えているかというのを考えるときに、その中の人が 20 人しかいないというと、その中の 1 人 2 人の特性がぐんと際立ってきてしまって平均値を上げるということがありますので、その辺は技術的に何とかしなければいけないなとは思っているのですけれども、その辺のところは足立区さんの財政的な問題もあって、そういうことになったとしても、何とか技術的にクリアできるようにするというのを考えております。

それから、もう一つ、QR コードで回答してもらおうという。要するに、Google でもいいのですけれども、いわゆる今のデジタルトランスフォーメーションに合ったような形で回答してもらおうというのはすごく答えやすいし、若い人たちはそれで回収率が増えると私も思います。ただ……。

■原田副会長

既に入っていると思いますよ。もう準備していただいていると思います。

■岩永会長

なるほど。何かもう既にここに QR コードがあるらしいですね、回答については。

ただ、私どもの、社会調査協会というところに所属しているのですけれども、そこで研究している人たちによると、最近 QR コードがあったときに、それを読み込むということにすごく神経を使う人がおられるようなので、例えばこれを読んでしまいいいのかとか、この QR コードを読むとそこに URL が出てきて、この URL に入りますよというのを見たときに、ふと、押すときにちょっと考えてしまうとか、それに自分の回答を言ってしまうと何かそれが悪用されるのではないかと感じてしまうということで、それはそれでまたいろいろな懸念があるということで、答えやすくなると思いますし、いいと思うのですけれども、ただ、それで劇的に数が増えるかというと、ちょっと懸念はあるところですね。

でも、これが嫌な人は紙で答えてもらおうということもできますので、いろいろなやり方で聞く、いろいろな答え方を提示するというのはとてもいいことだなとは思っております。

事務局のほうで何かありますか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ご質問ありがとうございます。件数につきましては岩永会長から補足もあったかと思いますが、我々のほうでも自信を持って十分な数ですとはなかなか言える件数ではないと思うのですが、分析等をやりながらぎりぎり何とかできるところかなということで設定をさせていただきました。

QR コードについては、申し訳ありません、最初のご説明で不足しておりました。令和 3 年度のアナケートのときから実際にやらせていただいております。今回も、紙もお送りしますけれども、オンラインで答えたい方にはオンラインでということで、間口は広げたいと思っております。

■岩永会長

ありがとうございます。

どうぞ。

■長沖委員

長沖です。参考 6 が多分具体的なことだと思ってこちらを見ているのですけれども、この後、検討の中には、この選択肢の順番というのはかなり聞き手の希望とかが何となく現れてしまうというか、恐らく区の施策を表現しているぐらい上から順番がついているようにも見えなくはないのですが。この辺は、今までの経緯というか、同じ質問をするということもあるでしょうし、あとは本当に区の施策を反映させたいというのもあると思うのですけれども、ここはプロにお任せ

する感じになりますか。

■岩永会長

この検討ももちろん、委員会の部会の中でやっていただきたいので、そこはもうフリーハンドで自由度の範囲内だと思いますけれども、確かに言われているように、まず親から始まって自分の子どもとか友人・知人とか学校が、つまり社会的な距離が近いところからだんだん遠くへというのが何となく、一番身近なところの人の学習行動が子どもに伝わっていくのではないかと、最初から思い込みで作られているのではないかと。全くそのとおりです。

ただ、これは、ちょっと言い訳的に言いますと、皆さんが回答する側に立ったと考えてください。回答する側になったときに、どういうところから「ああ、あの人の影響があったな」とか、こうだったなと思うときに、やはり思考経路として身近なところからだんだんに疎遠なところへ向かって考えていくと思うのですよ。だから、回答するときいきなり「石破首相がそう言ったから」というのが最初にあったりすると「ええっ？」という感じになって、自分の身近なところから行かないので、この問いに限らずですね。大体こういう調査をするときの一つの鉄則は、身近なところから社会的距離の遠いところへという順序でやることになっていて、それが答えやすいだろうということです。

だから、いかにもこれは最初からそういうことを期待しているなというのが見え見えだから何とかしなければいけないと思われたら、もうランダムに変えてもらってもいいと思うのですが、そのときには前にやった調査との連続性が怪しくなりますので、その辺のところも考えていただければと思います。決してやってはいけないということでは全然ないので。

■長沖委員

分かりました。ありがとうございます。

■岩永会長

どうぞ、しぶやさん。

■しぶや委員

区議会議員のしぶやでございます。冒頭に、まずこのイベントの項目ごとのところを区の執行機関がしっかりとまとめ上げてくれたこと、本当にありがとうございます。非常に分かりやすいと思います。

このアンケート調査の中身というよりも——では最初の中身についてというところで、先ほど高祖委員からもありましたけれども、自分も同じ意見で、この回収率のところでは 8,000 件から 3,000 件で果たして本当にその声が拾えるのかというところは、何でもかんでも、私自身も区の中の施策でアンケート調査をやって、減らすということはなかなかないものですから、少し不安になったのです。先ほど岩永会長がおっしゃったように、やはりなるべく拾うべくして拾うところをしっかりと包括的にやっていくということで、3,000 件というのは大変理解をしたところなのですけれども、これは改めて区にお伺いしたいのですが、ではそういったときの 3,000 件の中での区が目指す目標の回収率を取りあえずお聞きしたいなと思ったのですけれども、大体何%ぐらいとか、割合はあるのでしょうか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ご質問ありがとうございます。回収率については、目標といいますか、現実的なところとして前回と同様ぐらいがまずは最低限かなと。35%ぐらいで、そうしますと 1,000 件は集まるのかなということで考えております。それを下回ってしまうと結構苦しいのかなと思っておりますので、

最低限そこはということで考えております。

■しぶや委員

分かりました。ありがとうございます。

そういうことであれば、しっかりと本当に行き届いてほしいなということがあるのですが、最初の段階で足立区の参考 6 で、これはウェブ回答用のやつなのですが、この「足立区文化・読書・スポーツに関するアンケート調査」というのは多分このままお渡ししていたような形だと思うのですが、これを見たときに何か補足の資料とかがあればいいのですが、これはもったいないなと思ったのが、足立区でなぜこういったアンケート調査をしているのかという、そもそものひもづけというか、見たときにこれは何のアンケートなのかなと考えたときに、特に若い世代は多分そういうふうに感じると思うのですよね。

であれば、やはり足立区の運動・スポーツ推進計画とかの 1 ページ目の「はじめに」のところに近藤区長からのご挨拶があるのですが、そういったメッセージがせっかくあるのであれば、全部ではなくても、足立区では人生 100 年時代を見据えて文化・読書・スポーツ分野に親しむことで区民一人一人が生きがいや潤いのある人生を過ごせるという共創づくりであるということ踏まえた上で、足立区が目指す施策の展開の中でぜひともご協力をいただきたいといった、せっかくのこのメッセージは何かしらの文面で添えていったほうがアンケート調査で答える人もより分かりやすいのかなという意味で思ったのですが、その点についてはいかがですか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ご意見ありがとうございます。おっしゃるとおりかと思っております。

すみません、私もうろ覚えなのですが、最初に平成 30 年度にやったときにはそういった趣旨のペーパーを 1 枚、この調査票とは別に入れていただいた経緯もたしかあったかと思しますので、そういった形で、このアンケートがどういう趣旨かとか、足立区が文化・読書・スポーツでどこを目指すかとか、そういったところが何らか伝わるような仕組みにさせていただきたいと思います。

■しぶや委員

ありがとうございます。足立区 3 分野連携事業アンケート分析報告書を見ても、このアンケート回答者の属性で、2024 年度に「ちょいスポ」とか「ちょいカル」のキャンペーンのターゲット層はいずれも子育て世代を想定した 20～40 代であるということも提言しているわけですから、やはり若い世代にせつかく行き届くのであれば、こういったところでの周知の徹底というところ、またそして何より分かりやすく身近に感じていただきたい、行き届いてほしい、しっかりとそういったところは工夫を凝らしてぜひともやっていただけたほうが、この 20～40 代、せつかく足立区も今、皆様もご存じのとおり 70 万人の人口に到達して子育て世帯もかなり増えているところですので、ぜひともそういったことを工夫を凝らしてやっていただければなと思います。

以上でございます。ありがとうございます。

■岩永会長

ありがとうございました。大変貴重なご意見かと思います。

ただ、アンケートを何のためにやるのかということを考えたときに、一つ一つのアンケートの回答が、例えば区の施策に対する要望とか希望とか意見といったものとしてアンケートを取るのか、それとも、区民のこの 3 分野の活動が今どういう状態にあるかとか、そういうものに対してどう考えているかという事実の段階で取るのかということでも違ってきてしまうのですね。

みんなが有権者として区の施策に何か一言言いたい、こういうふうに考えるというのを言いたいというのを取るアンケートだったら、まさにいろいろなこと、「こういうつもりでやります。このアンケートはこういう目的です。あなたのご意見を伺いたい」というので全然構わないし、それはないと困るのです。確かにこれは、何のためにこれをやるのかというのが全然分からないので。ただ、これのためにやりますということをあまり詳しく体系的に書いてしまうと、その人が実際にやっていることとか、考えていることとか、何をしたいと思っているかということに影響を与えてしまう可能性が高くて、その人が日常的にこの 3 分野の活動にどのように関わっているとか、どのように考えているかというのを平場で聞くということが難しくなってくるのですね。だから、こういうつもりでやりますとか、こういうものに資するためにやりますというのはアンケートの取り方として、聞き方として王道ではあるのですが、たしかそれを平成のときには別刷りにして 1 枚つけたのですが、あまりそれがこの調査票に影響を与えてしまうとまずいかなということで分けたというところがあります。そのバランスが難しいと思うのですよね。何でもいから答えろというのは大変乱暴で、何のためにやるのかというのがちゃんと分かっているかないと答えにくいですし、それから、あまりこういう目的だということを、先ほど選択肢の順序というのもありましたけれども、こういう目的だというのがあけすけに伝わってしまうと、日常的にどのように考えているか、日常的にどういう行動をしているかという部分のアンケート結果に少し色がついてしまうという可能性もあって、確かにおっしゃるとおり、何でもいから答えろというふうに受け止められると、それ自体も大変失礼だし、回答が少なくなってしまう可能性もありますので、その辺のバランスを考えて、これは部会だけではなくて全体で考えなければいけないですね。専門家の意見も加味しつつ、今のしぶや委員のご意見を最大限敷衍して考えていきたいと思います。どうもありがとうございました。

時間が大分過ぎてしまいましたが、この辺でよろしいでしょうか。まだありますか。

■大竹委員

1 つだけ。区議会議員の大竹さよこでございます。

すみません、これは日本人の方向けだけになりますか。外国人の方のご意見はどのように集める予定なのか。質問です。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ご質問ありがとうございます。こちらにつきましては、外国人の方だけ個別にターゲットを絞ってアンケートを配るということは考えていないのですけれども、無作為でやる際に一定程度外国人の方も含まれるという想定で、例えばこのアンケート調査票ですけれども、外国人の方でも読んでいただけるようにルビを基本的に振らせていただくとか、そういった形で対応させていただきたいとは思っています。

別個のアンケートを取るということは今のところ予定はしていませんでした。

■大竹委員

先生にお聞きしたいのですが、今人口が増えた 70 万人、その増えた内訳には外国人の方が増えているということもございます。今後こうしたアンケートを行う際、在住外国人向けのアンケートに関してはどのように進めていったらいいのか、少し教えていただければありがたいです。

■岩永会長

ありがとうございます。特にこういう特別な状況にある集団ということでアンケートをすることはやっていなかったのですけれども、大竹委員がおっしゃったような観点からすると、

そもそも社会教育という考え方は、もともとその国で小学校・中学校を出た人ではない人が入ってきたときに、その人たちをどうやってこの社会に、足立区の社会、日本の社会に同化してもらうか、適応してもらうかということを考えた上でやっていることなので、それを考えると、それは大事なことだなと思います。

ただ、一番大事なポイントは、サンプリングをするときの基データが何かということなのですが、住民台帳ですか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

おっしゃるとおりです。

■岩永会長

住民台帳だとすると、それは外国人も入っています？

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

外国人の方も含めて無作為で抽出するような仕組みにしています。

■岩永会長

そうですね。ですから、可能性はあまり高くはないですけども、一応排除する形ではなくて、国籍とか戸籍ではなくて住民票でやるということになれば、ランダムにやると入ってくる可能性はあるということですね。とりわけこの集団ということでは考えていないので、そこも問題かなと思いますけれども、一応排除はしていないと。

■大竹委員

今後、区の姿勢として当然排除はしないよと。区の姿勢として外国人の方も答えることができるんだよといったアピールというの必要なのかなと思います。ルビを振っていただいたということでございますが、今は様々な表示なんかも 3 か国語でやっていたところでございますので、今後の取組になるかと思いますが、実際にその方が答えてくださるというのは先生がおっしゃったように非常に数は少ないかもしれませんが、区の姿勢、見せる側の姿勢として 3 か国語は用意しているよといったことも今後必要なのかなと思います。これは意見・要望です。

■岩永会長

ありがとうございます。それもこれから部会で、それから全体会で議論するテーマになります。

どうぞ、古瀬委員。

■古瀬委員

すみません、時間も押しているところなのですが、調査対象に今回「障がい者団体を通じて」とあるので、例えば設問は、障がい者といっても特性や障がいの状況によっていろいろ抱えている課題がたくさん違うだろうというのは予想できるところで、それぞれの障がいの特性に応じたような設問もこのアンケートに何か加えてやる予定でしょうか。それとも、同じ設問で障がい者の各団体の方たちに答えていただくという予定でしょうか。教えてください。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ご質問ありがとうございます。実績でご説明をしますと、令和 3 年度にやったときには設問は同じものでやらせていただいております。今後どうするかにつきましてはまた皆様とご相談かなと思うのですが、例えば前回聞いたものとの経年変化を追うのであればなるべく変えないほうがいいのかとか、あとは今ご意見があったように、より個別に掘り下げるために設問を変えたほうがいいのかとか、委員会の中でぜひご議論いただければと思います。

■岩永会長

ありがとうございます。

これは私の意見なので、全体でまだそう決まったわけではないですが、アンケートで取るというのは、量で取って、その量から統計値を導き出すというやり方なのですね。ただ、障がい者の方とか先ほどの外国籍の方というのは数が少なく、それぞれに特殊な事情を持っているという集団なわけですね。そうすると、その人たちに同じように票をばらまいて当たるか当たらないかわからないというのを待っているのではなくて、例えばアンケートではなくてヒアリングをするとか、その団体に対して数名、どうしてもヒアリングだと 50 名とか 60 名というわけにはいかないので数名になると思いますが、そういうことに関わっている方にヒアリングをする。そうすると、より一つ一つのテーマというか問題について深く話が聞けるということもありますので。

むしろ、いっぱいバリエーションのある調査票を作ってばらまくよりも、そちらのほうがそういう問題についてはいいかなと思っておりますので、これについても全体会なり部会なりで、お金の問題を言われるとちょっと難しいところはあるかもしれませんが、でも、大したことはないよね、ヒアリングはね。むしろ紙をたくさん刷ってみんなにお配りするほうが大変だと思います。そんな方向で考えさせていただければと思います。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ご参考までに申し上げますと、平成 30 年度、31 年度に最初に計画をつくったときには、まさに聞き取り調査というのをやらせていただきました。障がい者の方とか、外国人の方は直接ではないのですが外国語ボランティアの方とか、そういった形で聞き取り調査を行ったという実績はございます。そういったものも含めてまた検討させていただければと思います。

■岩永会長

ありがとうございました。

もうこのまま実質的な全体会の議論に進みそうな勢いですが、一応こういう形でこの委員会は進めさせていただくということでご了解いただければと思います。

では、時間も押しているどころではなくて過ぎてしまいましたけれども、ここまで事務局から 3 分野計画の評価、それからアンケート調査の概要について説明がありました。

7 アンケート調査に係る有識者の出席について

■岩永会長

ここで私からちょっと、一番最初の予定にはなかったのですが、新しく作っていただいた次第の項目 7 のところに「アンケート調査に係る有識者の出席について」ということで、委員の皆さんにお願いとお諮りをしたいという事項があります。

先ほど項番 5 で事務局から説明がありましており、新計画策定に当たっては大規模なアンケートが予定されているところです。今後、アンケートの質問項目の検討、それから先ほど来ずっと議論されておりますどういう人たちに対する調査をするとか、どんな内容にするか、項目はどのような順序にするかというようなことも含めて、アンケート調査結果の分析を進める上で、推進委員会の会長として、お一人助っ人を頼みたいなと思っております。私の放送大学に次世代教育研究開発センターというところがありますが、そこの特命研究員をしていただいでいて、昨年度までは埼玉県立大学の教授をされておりました森村先生を有識者として、今後の推進委員会の全体会へ出席していただいで、必要に応じてアンケートとその集計・分析に関する意見を伺って

いきたいと思うのです。

これは、足立区文化・読書・スポーツ推進委員会の条例というのが出されておまして、その中の第 8 条に「委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。」という条項、それから、私が提案した先ほどの議事は、「委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。」という規定がありますので、どうか皆様にもお認めいただきたいと思いますところですので。今後、推進委員会の全体会にご出席いただいて、必要に応じて意見を伺ったり、分析に対するアドバイスをさせていただいたりということをしてしたいと思います。

実は森村先生は、項番 6 のところで事務局から今日説明があります 3 分野連携事業アンケートの分析において分析者として携わっていただいたほか、中間評価などにも参加していただいておりますし、足立区の生涯学習センターや地域学習センターなどを運営する指定管理者の評価委員会においても評価委員として——評価委員長は隣にいらっしゃる原田先生なのですが、
「なんだ、みんな身内でやっているのか」と言われるかもしれませんが、評価委員として参画された経歴もあります。このため、この 3 分野計画及び生涯学習支援事業に対する知見が豊富にありまして、理解も深いということで、統計や分析を専門とされているということもありますので、今後、推進委員会としての議論を深めてより良い結果に導いていくために、ぜひ意見を伺っていきたいと感じているところです。

いかがでしょうか。私のほうから提案させていただいて、もし賛成ということであれば拍手で。
(拍手)

■岩永会長

どうもありがとうございました。実は、料理番組で「こちらに 30 分煮たものがあります」と出してくるのと同じですけれども、実は今日後ろのほうに来ていただいている、話は聞いてもらっておりますので、ちょっと一言。

■森村氏

今ご紹介にあずかりました放送大学特命研究員の森村でございます。

足立区のお仕事は私もいつも楽しみにしております。データ分析を通じていろいろな勉強させていただいております。非常に志の高い取組をしていらっしゃるというふうに感心しております。微力ながら頑張りますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

■岩永会長

いきなり振りましたが、どうもありがとうございました。

ということで、本日用意した議事は以上ということですが、……。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

会長、申し訳ありません。項番 6 のほうを。

6 令和 7 年度 3 分野連携事業について

(1) 令和 6 年度の実績・令和 7 年度の方針

(2) 3 分野連携事業の新名称

■岩永会長

飛ばしました、すみません。「3 分野連携事業について」ということで、これも事務局からペーパーの説明をしていただきます。よろしくお願いします。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

では、事務局のほうからご説明をさせていただきます。項番6「令和7年度 3分野連携事業について」ということで、資料6をご覧ください。A4縦のホチキス留めの資料となっております。

3分野連携事業につきましては、前回の第1回会議で概要をご説明させていただきましたけれども、文化・読書・スポーツの計画を一体的につくろうということでスタートしたときに、何かポイントになる事業をということで始めさせていただいたものになります。具体的には、1つの分野からほかの分野への関心とか行動も深まるようにということで行っている事業になりまして、例えば一番最初に行ったのが、図書館から文化やスポーツの事業が楽しめるようにということで、図書館の中でバランスボールを使った運動を行うとかヨガをやるといったことで始めた事業となっております。こちらにつきましては、毎年区民の方向けにアンケート調査を行わせていただいております。その実績をこの推進委員会でも随時ご報告させていただいております。その令和6年度の実績のご報告になります。

1ページ目に概要を記載しておりますけれども、ターゲットといたしましては、先ほどしぶや委員にも触れていただきましたように、子育て世代、20～40歳の保護者の方ということで進めてきております。実施期間とか実施場所は記載のとおりですけれども、「エ 実施回数」と「オ 参加者数」ですが、延べ1,000回、参加者数が約1万1,000人ということで、下のグラフになります。令和5年度に比べると若干増えておりますけれども、この3年ぐらいで見るとほぼ横ばいという形になっております。こちらにつきましては、後ほどの資料にも記載がございますけれども、指定管理者でもかなりの事業数を行ってきていて、一定程度、数はもうこれ以上増やすのが難しいかなというところまで増やしてきて、今現在1万2,000弱で推移しているところでございます。

めくっていただきまして、2ページ目にアンケートの結果をまとめさせていただいておりますが、具体的な内容に入る前に参考資料8のほうをご覧ください。厚手の冊子になりまして、3分野連携事業アンケート分析報告書というものになります。こちらはかなりボリュームがありますので、本日は内容の全てに触れることはできないですが、主要なところだけ触れさせていただきます。

まず、こういったアンケートを取ったかという概要ですけれども、表紙をめくっていただきまして1ページ目をご確認ください。「1.3. 分析方法」という項目がありますけれども、ここに分析方法が記載されております。

1つは、①番の「行動変容ステージにおける実施層割合の確認」ということですが、簡単に言いますと、文化・読書・スポーツに関する行動の度合いがどれぐらい変わったかということで、5段階に分けて分析をしています。5段階につきましては、表1-1に書いてありまして、一番行動の度合いが高いものとしては、現在定期的に文化・読書・スポーツに関する行動をしていて6か月以上継続していると。一番行動のレベルとして何もしていないというところで見ますと、現在活動をしていなくてこの先するつもりもないという、無関心期というものがあります。このレベルがどれぐらい変わったかというところが主な分析になっています。

それに加えまして、②番で「ライフスタイル変化の得点化」となっておりますけれども、こちらにつきましては、3分野連携事業を行ったことで文化・読書・スポーツに関して具体的にどのような変化が起きたかということで選択肢を選んでいただいているものになります。具体的には、報告書の6ページをご確認ください。

6ページの真ん中より下のところに「ライフスタイル変化関連項目」とありまして、スポーツと

読書と文化でそれぞれ生活の中でどういった変化があったかということを選択肢として用意させていただいて、この中で例えばスポーツの取組に関心を持つようになったとか、スポーツのことで家族に話したとか、そういった選択肢がどれぐらい選ばれたかというところでライフスタイル変化を測っている形になります。

あとは、1 ページにお戻りいただきまして、令和 6 年度に特に新しい項目として設けましたのが④番。先ほど②番のライフスタイル変化をご説明しましたが、その 2 つ下で、事業に対する満足度というものを新たに聞かせていただきました。後ほどご説明しますけれども、ここの分析を今回加えたことが一つ令和 6 年度の大きなポイントになっております。

それでは、資料 6 のほうにお戻りいただきまして、2 ページ目をご覧ください。今のような分析を行いまして、分析の結果といたしましては、例年同様得られたものと新たに得られたものということで、アの（ア）と（イ）で分けて記載させていただいております。

例年同様の調査結果につきましては、基本的にはこのプログラムは一定程度成果があるという、例えばライフスタイルに変化を及ぼすとか、文化・読書・スポーツに関する行動の実施のレベルが変わるといったことは出ていた形になります。

それで、新たに得られた調査結果の②番ですが、事業満足度ということで、今回初めて個人の内面に関する部分を聞いたのですけれども、こちらに対してもこの事業は効果があるということが分かりまして、この事業満足度というのは主観的ウェルビーイングに寄与する可能性があるということで、こちらは森村先生に書いていただいたところになりますけれども、このウェルビーイングというのが足立区の令和 7 年 4 月から新しく始まった基本計画の中でも一つ大きなテーマとして挙げられているもので、その基本計画の中では「個人の幸福感が満たされた状態」をウェルビーイングということで定義しているのですけれども、この事業がそこにも一定程度寄与することが事業満足度の分析を通じて分かってきたところです。ここで見えてきたことを踏まえまして、令和 7 年度の事業の分析の中でもそういった視点で、少し内面の変化とかウェルビーイングといったことを盛り込んでいきたいというのが今年度のポイントとなっております。

今申し上げた内容が 2 ページ目の 2 番「令和 7 年度の方針」に記載させていただいているものになります。

最後になります。3 ページ目、こちらはご報告になりますが、3 分野連携事業の名称を令和 7 年 5 月から変更させていただきました。今までは「ちょいスポ」「ちょいカル」「ちょい読み」ということでやっていたのですけれども、「ちょい読み」という名称が商標登録の関係で使えなくなってしまったことを踏まえまして、こちらの「ぷちスポ」「ぷちカル」「ぷち読み」に名称を変更させていただきました。今年度はこちらの名称で事業を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

私からは以上になります。

■岩永会長

ありがとうございます。すみません、大事なところを飛ばしてしまいました。私、勘違いしていたのですけれども、この委員会は 1 時半から 3 時までだとすっきり思い込んでいて、これは過ぎてしまったなと思っていたのですけれども、3 時 30 分まででした。むやみに延ばす必要はないのですけれども、過ぎてしまったと言わなくてもよかったなと思っております。

今ご紹介いただいたとおり、既に森村さんには分析に協力していただいております。彼の一つの考え方として「主観的ウェルビーイング」というところに一つ視点を定めているのですね。

往々にしてこういう事業をすると、どれだけの事業をやったか、何人が集まったかというようなところで終わってしまうのですけれども、そういう量的なことだけではなくて、その結果、生き方とか取組といったものがどう変わったかとか、どのように自分の人生にとってプラスになったかというようなことも含めて、自分が思うウェルビーイングにどれだけ近づいたかということが分かるような調査もしたいなど。そういう意味で、先ほど参考8で言っていた実施層の「定期的に何々をしています」というのをトップにして、一番ボトムに「何々をしていませんし、この先、するつもりもありません」というのがどう変わったか、その数値がどう変わったかということも含めてやっていくと。ちょっと口幅った言い方ですけども、量的な観点から質的なところに重点を移したほうがいいのではないかとということで、この企画が何人集めたか、どういうことを何本やったかということだけではなくて、それによってどう変わったかということも当初のこの3分野の目的の一番大きなところになります。標語を忘れてしまったのですけれども、楽しむ、何々と3つありましたよね。「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」か。まさにここまでやらないと本当はこの3分野の事業が成功であるというふうに言えないところでもありますので、これはもともとたくさん事業をやるためでもないし、人をたくさん集めるというだけ为目的にしているのではない。途中にはそういう目的がありますけれども、さらにその先に、「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」と。この標語を作るだけでも半年ぐらいかかっていたのですけれども、非常に大事なことだと思っております。

一番大事なところを飛ばしてしまっただけで申し訳ございませんでした。

この点について何かご質問とかご意見がありましたらお願いします。最後の最後にとっても大きなお話をさせていただいたということになりますが、よろしいでしょうか。

もちろん、一つ一つのアンケート項目の検討とか事業の評価ということの一つ一つやるときに、常にここに帰らなければいけないということではないのですけれども、どこか心の中心のところにこれを、「こういう目的でやっている事業なんだ。こういう目的で組み立てられた事業なんだ」ということを念頭に置いていただいて、評価なり次のアンケートというところに進めていただければと思います。

それから、最後にちらっと出てきました「ぷち」に名称が変わったということで、これも大変私もうっかりしていて、事務方もうっかりしていたのだと思うのですけれども、本当は「ちょい」を使えなかった。「ちょい読み」だけなののですけれどもね。「ちょい読み」が使えなかったということで、あとの2つも、そこだけ「ちょい」を使わないというのもおかしいので、「ちょい」をやめて「ぷち」にすると。「ぷち」は大丈夫でしょうね。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

はい。確認させていただきました。

■岩永会長

「ぷち」は大丈夫ということで、これからはこれでいくということにさせていただきました。

8 意見交換・質疑応答

■岩永会長

全体を通して何かご質問・ご意見がありましたら伺いますが。どうぞ、中村委員。

■中村委員

活動指標の一つの見方といいますか、実際に私のところでは、参考3-3で見ていただくと分かる

のですけれども、事業番号 5 番「パークで筋トレ」というのがあるのですけれども。

■岩永会長

何ページになりますか。

■中村委員

3/22 ページですね。「パークで筋トレ」というところなのですが、この項目は区民評価委員会で重点プロジェクトということで評価している項目でありまして、個別具体的にスポーツ振興課のほうには非常に恐縮なののですけれども、これは指標が「事業実施回数」「事業参加者数」という 2 つの項目になっております。実際は A 評価で達成しているということなのですが、「パークで筋トレ」がどんなものかということで、私も実際に行ってみました。それで、非常にいいと思います。1 時間ぐらいで、まず体をほぐすために少し公園を歩いて、それから具体的に体を動かしていくという作業になるのですけれども、1 時間ぐらいで汗をかけると思います。

この事業なのですが、新規会場の増設、それと開催回数を上げると数値は達成されるのですね。私が言いたいのは、新規参加者、要は回数を増やせば参加者も増えますよ、会場を増やせば参加者も増えますという指標ではなくて、新規参加者がどのぐらいいるのかというところを一つのポイントにさせていただくと。ですから、項目の指標は「実施回数」「参加者数」プラス「新規参加者」というのが必要なのではないかなということで、区民評価委員会でも指摘をさせてもらっております。

そういったことで活動指標が常にこれは正しいということではなくて、この事業を展開する上で最大限効果を発揮するためには新たな指標も必要ではないかなという視点も持っていただければなと思います。そうしますと、いろいろな事業を見ていく上でいろいろな視点で効果が最大限発揮できるような気がしますので、ぜひそういった視点でも検討いただければと。各分野でいろいろな視点で見ていただければと思います。この活動指標はこれで固定ということではなくて、この事業を発展的に成功させるためにはもう一つ視点が必要だとか、そういった目線で見えていただくことも必要かなと思いますが、事務局、よろしいでしょうか。

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

ご意見ありがとうございます。指標については、今年度、令和 7 年度の評価については今記載のものでやらせていただくのですが、新計画にどういったものを入れ込んでいくかというところはまさにこれから皆様に検討していただければと思いますので。

ご参考までに申し上げますと、令和 6 年 3 月、こちらの計画は、中間で改定するときにも指標のほうは結構見直ししておりますので、同じく新計画策定するときにもそういった形で盛り込めるものは盛り込んでいきたいと思っております。

■岩永会長

ありがとうございます。確かにディープな活動者が何人いても、反復して同じ人がずっと来るといふ。それだったら回数を増やせば自動的に同じ比率で参加者が増えていくわけですが、それだけだと意味がないのではないかと、それだけだと意味が薄いのではないかとするのは確かにおっしゃるとおりで、新規に参加した方がどのぐらいいるかということも非常に大事な指標だと思います。それもやはり評価する上での大事な指標だと思いますので、何か工夫をしていただければと思います。

私が勤めております放送大学も、今年はちょっと入学者が増えたのですけれども、蓋を開けてみますと再入学者が多いのですね。一度入ったらまた、あるコースを卒業したら、次のときには

別のコースで入ると。4割ぐらい再入学者がいるので、水増しではないかと外から言われそうな感じもするのですが、そういうディープな放送大学ファンをずっとつかまえておくというのも大事なこともかもしれませんが、やはり新たに入ってくる人、全くゼロベースで入ってくるという人たちが増えないと、うちの大学もこれから先は危ういなと思っているところでもありまして、まさに中村委員がおっしゃったように、新しい人を獲得できたのかというのも非常に重要なポイントだなと思いました。

読書なんかの場合にはちょっと難しいところもあるかと思いますが、できないことはないですね。そういう新規は。

■原田副会長

もちろん新規の獲得もそうですし、一方で、新規がいらっしゃって続かないのもそれはそれで問題なので、単に新規を入れればよしだけではなくて、どのような指標が必要かというのはいろいろな観点から出していく必要があるなと思います。

いずれにしても、観点というのは、どんどん必要なものを考えていくというのは重要なお話だと思いますので、ぜひ検討させていただければと思います。

■岩永会長

ありがとうございます。確かにいろいろな指標をつくったりいろいろな評価をしたりするので、その都度考えさせられてしまうのですが、この3つの分野は本当に親和性があるのかなという。要するに、全然事情が違うのですよね。読書と文化とスポーツというのは事情が違って、スポーツだと「なるほど、そうだな」と思う指標も、読書だと「その指標は読書には向かないんじゃないの」というのもあって、それがまた面白いところでもあるのですけれどもね。全く同じだったら一緒にやる意味が全然ないので、すけれども。

そのようなことも考えながら、各部会では、アンケート項目もそうですし、この評価もそうですが、より良いものをつくっていただければなと思います。

ほかにいかがでしょうか。全体を通して結構なのですが。どうぞ、古瀬委員。

■古瀬委員

少し戻ってしまうのですが、資料4-2のところですが。先ほど事務局からご説明いただいた、今回参考3-1、3-2、3-3という各分野ごとの各事業の確認を私たちがするというご説明いただいたのですが、そうしますと、資料4-2の外部評価の第3次のところは、施策だけではなくて事業のところにもこの推進委員会の外部評価の囲みというか点線が若干かぶったほうがいいのではないかなと思いました。今後、部会で各施策だけでなく事業に対する意見交換もするというふうに記載されていますので、4-2の外部評価のところ、これが推進委員会なのか、「各推進委員による確認」みたいな文字が載っていてもいいのではないかなと感じたところです。

■岩永会長

ありがとうございます。どうですか。ちょっと書き方、表し方にもあれがあると思うのですが、すけれども。

■事務局（中央図書館長／3分野連携担当課長）

ご意見ありがとうございます。古瀬委員がおっしゃったように、活動指標管理表については、推進委員会の皆様には評価はしていただかないのですが、施策評価の際にご参照いただくというのはまさにそのとおりですので、何らかそれが分かるような、文章とか図にして書き込むとか、ちょっと工夫させていただきたいと思います。

■岩永会長

それはそうですね、やはり施策だけだと。

ほかにありますでしょうか。よろしいですか。

普通、大学などでは 2 時間もぶっ続けで話していると学生が寝てしまうので、途中で休み時間を取るのですけれども、休み時間なしで、ぶっ通しでさせていただきました。

ちょっと時間は早いのですけれども、以上で本日の全体会を終了とさせていただきます。

最後に、事務局から何かありますか。

9 事務連絡

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

皆様、長時間ありがとうございました。事務局から 3 点ご連絡をさせていただきます。

まず、今回のこちらの会の開催でございますが、今回は全体会ではなく各分野ごとの部会となります。時期としましては、令和 7 年 6 月下旬～7 月上旬ということで、今、日程調整をさせていただいております。決まり次第、速やかにご連絡をさせていただきます。

今回の内容といたしましては、6 月中に委員の皆様にご確認いただく評価調書、先ほどお配りさせていただきました参考資料 3 ですとか、これから追加でお送りいたします施策評価シート、そのほかアンケートに関する資料等にもお目通しをいただきまして、その上で部会の中でより掘り下げた議論をさせていただければと思います。開催通知ですとか会議の資料につきましては、完成次第改めてお送りさせていただきます。

次に、2 点目となります。本日の会議の議事録についてですが、事務局にて案を作成した後、委員の皆様にお送りさせていただきまして、内容の確認をお願いする形になります。皆様の確認が終わり次第、区のホームページに掲載させていただく予定です。なお、前回、第 1 回の議事録につきましては、既にホームページに掲載させていただいております。

最後になります。本日お車でお越しの方につきましては、駐車券をご用意しておりますので、出口付近の係員にその旨をお伝えいただければと思います。

閉 会

■事務局（中央図書館長／3 分野連携担当課長）

本日は、誠にありがとうございました。